
リリカルなのはVivid 刀と鮮烈の物語

百鬼丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは vivid 刀と鮮烈の物語

【NZコード】

N1492Z

【作者名】

百鬼丸

【あらすじ】

エース・オブ・エース高町なのはの娘、高町ヴィヴィオが突然現れたウサギロボットによつて、別の世界に連れてかれてしまつた。そして着いたのは刀を使わない剣士の住む世界だつた。

序章1（前書き）

魔法少女リリカルなのは vivid と刀語のコラボです。

これはある世界での出来事。タンスや荷車や時計などガラクタで埋め立てられた湖の近くに工房があつて、そこには4本の腕と4本の足でしかも4本の刀を持った女性型人形と、ウサギ・ネコ・カメ・サソリ・イノシシ・カマキリ・カラス・クジャク・シャチ・イルカ・タカ・クモ・リュウの、マスクットのような小型の動物ロボット13体と、そして編み笠を被つて眼の下に菱形の刺青をした男がいた。

「いいか、俺が連絡するまで待つてろよ。」

男はリュウのロボットを肩に乗せて

「お前はここを守るんだぞ。分かつたか日和弓。」

日和弓と云つて、前の人形にそつと

「本当に素材は見つかるのでしょうか？」

ネコのロボットが心配そうに尋ねる。

「おーおー。なに弱気になつてんだよー。」

するとカマキリロボットが怒鳴りながら言つて

「すみません・・・・・・でも異世界は沢山あるのですよー・しかも時を越えるなんて・・・・・・」

「まったく、お前は本当に心配性だな。」

クジャクロボットがネクロボットの肩を叩いて呑氣に言つ。

「やうだ、心配はいらねえよ。むしろ好奇心が高くなつてへるぜ。」

男がネクロボットを優しく撫でると

「それに、もし見つからなくとも、それはそれで面白うじやねえか。」

「本当にアンタは、なんとなく否定的だな。」

ヒシャチロボットが呆れてしまつ。

「かはははははははー、そつか?」

なぜか男は笑い出すと、リュウクロボットは田からゲームを出した。そこから次元の穴のようなのが出現して

「それじゃあ、行つてくらあ。」

男はそのまま入ると穴が消えてしまった。

「行つてらつしゃーー四季崎記紀ー！」

そしてウサギロボットが大きな声で元気良く、四季崎記紀という名の男に送りの挨拶をするが、じつはこの四季崎記紀という人物は、戦国時代を実質的に支配したという伝説の刀鍛冶だった。

あれから百年後、とある城が燃えていた。その城に1人の体格の良くて髪がボサボサな男が、まるで自分の腕や足を刀のようにして兵士達をなぎ払いながら進んで行った。すると男は少し派出な衣装で、オッドアイの青年と出会つ。

「そうか、僕はこんな形で失敗するんだ。」

青年は刀を抜いて男を斬りかかるとしたけど男は手刀で刀を圧し折ると

「今となつては詮無き事だな。虚刀流、鑓六枝。」

「全くそのとおりだな・・・・・・・・・・・・・・飛騨鷹比等。」

そして鑓六枝は飛騨鷹比等を殺した。

序章1（後書き）

次の話で、ヴィヴィオ達が出ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1492z/>

リリカルなのはVivid 刀と鮮烈の物語

2011年12月5日08時57分発行